

地方行政

◎昭和23年7月9日 第3種郵便物認可◎毎週2回刊・木曜日発行(但し祝日を除く)◎購読料金 税抜月額5,300円
発行所 〒104-8178 東京都中央区銀座5丁目15番8号 時事通信社

市政参画の新しいかたち 道標

前業 泰幸 津市長



津市は、2026年1月に合併20年という節目を迎えます。06年、10市町村の合併により誕生した津市は、710億円の合併特例事業債を、法改正による発行期間の延長(10年から20年)も生かし、計画的に借入と償還をいくつか有効に活用し、健全な財政を維持しながら、合併時に約束した20事業をはじめとするさまざまな事業を着実に推進してきました。私が市長に就任した11年当時は、旧久居市と旧8町村の方々から、地元で役場や議会がなくなりさみしさを感じるとの声もお聞きしましたが、市民のご意見に丁寧に耳を傾けて地域課題を解決しながら、学校施設の大規模改修、久居アル

スプラザなど文化ホールの新築、都市計画道路上浜元町線の整備など、合併していなければ進まなかったかもしれない事業を実現する中で、そうした声はほぼ無くなりました。旧津地域でも津興橋の架橋や実現困難と思われていた大谷踏切の拡幅工事(2・5区から11区)を実現したことにより、現状を新しい形に変えていくことへの期待が市民の間で大きく膨らんできているのを実感しています。これを受け、世代を超えて多くの市民や多様なステークホルダーがまちづくりに関わっていただける仕組みを各分野で展開することとしました。

中心市街地の大門・丸之内地区では、多様な関係者で設立したエリアプラットフォームが官民連携でまちづくりを推進します。津駅西口駅前広場の整備では、昨年度に4回意見募集を行ったところ、全部で736件の前向きで積極的なご意見を頂きました。国の地方創生第2世代交付金を活用した子どもの遊び場づくり事業では、「津市子どもまんなか社会実現会議」に子どもや若者など、実際に利用する世代が集い、自由に遊具や設備を決めていきます。津市は、市民の参画を得て市政をつくり上げる新たなスタイルで、さらなる高みを目指し歩みを進めてまいります。

2025年(令和7年)

9月1日[月]

第11398号

目次

連載	2
縮退社会における都市経営 官民共創りレポート(104) 人口600人の村が挑む「量」 の哲学と攻めの自治体運営 遠藤貴幸・北海道音威子府 村長インタビュー(前編)	
行政EXPRESS	6
霞が関かいわい	6
まとまったけれど異論も噴出	
連載	8
抜本的公務員制度改革⑥ 単線型キャリアパス の限界(上)	
解説	10
目指せ投票率アップ!	
農政ウォッチング	12
コメ、秋以降も 高値継続の流れ	
トピックス	13
総務省 消防士、女性比率の目標は? 内閣府 施設転用には国の基準が...	
連載 NEW	14
ポスト標準化の自治体DX① サービスデータの利活用で 住民と行政に有益なDXを	
一家言	17
フェイク?	
特集・人事院勧告	18
月給3・62%増 ボーナス年4・65カ月に	
点描・永田町	20
戦後80年「語り継ぐ」 「反省」の思い、	